

AI美空ひばりの「いのち」に 関するアンケート





この資料の概要

この資料は2020年9月6日 19:00~20:00開催の『AI美空ひばりと考える“いのち”の領域』にて紹介された『AI美空ひばりの「いのち」に関するアンケート』の分析レポートであり、当時の発表スライドに口頭発表の情報を付加したものとなります。

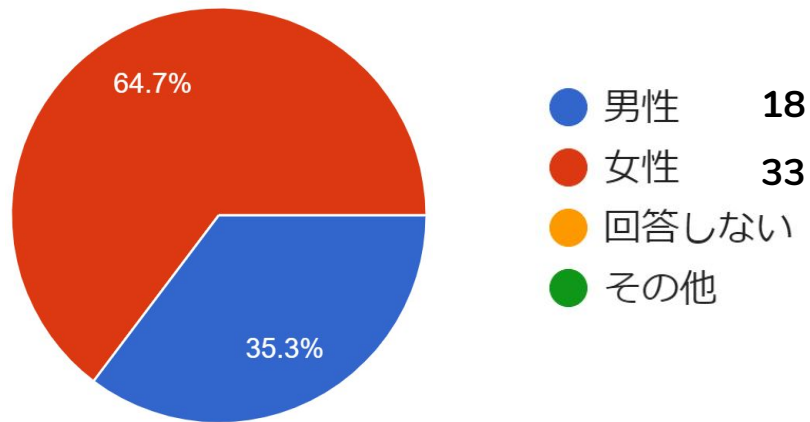
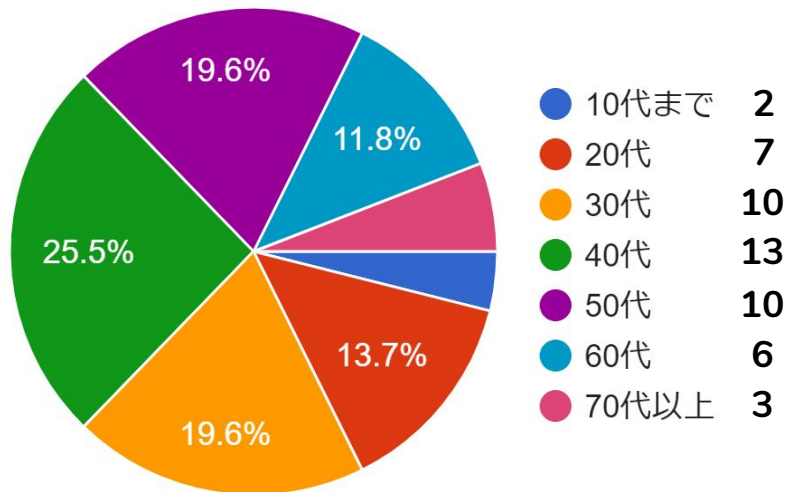
アンケートはNHKを主体とし山形ビエンナーレ 2020の運営のもと9月1日～9月6日にかけて行われ、井上雄支様(AI美空ひばりプロジェクト開発担当・NHKチーフディレクター)、江間有沙様(東京大学 未来ビジョン研究センター 特任講師・人工知能学会倫理委員会副委員長)の協力のもと池谷駿一(東京大学院学際情報学府・修士)が作成/分析を行いました。

AI美空ひばりの発表以降、AI(人工知能)による歌声やその存在に対して、デジタルコンテンツの領域を超えた「いのち」を連想させる様々な反響が沸き起こっています。このアンケートはそのような問題関心から、回答者の属性を見据えつつ、AIひばりのどこに「いのち」を連想させる領域があるかを調査する企画となります。



回答者の年齢層と性別

回答者数は51名

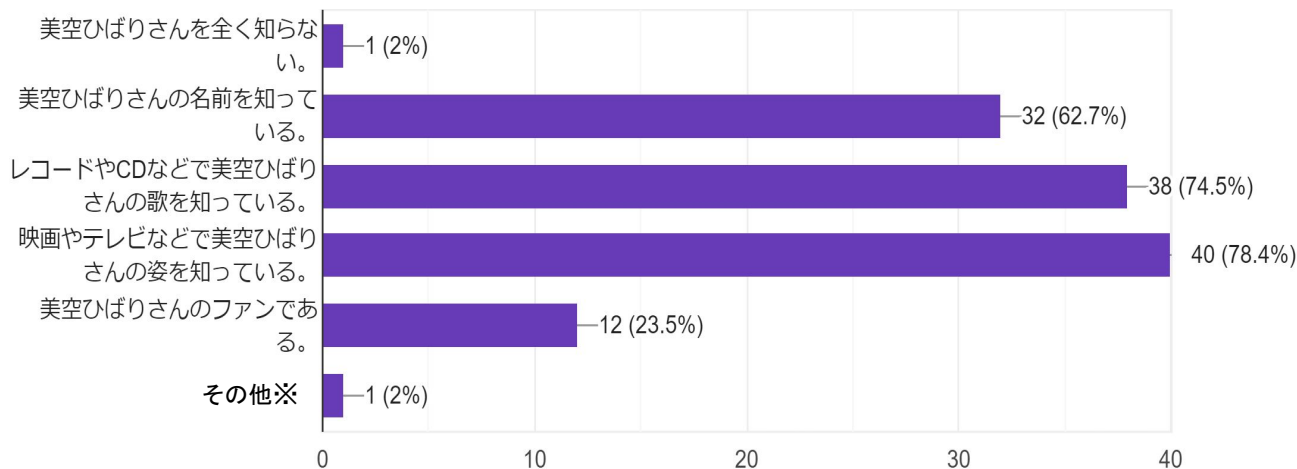


回答者と美空ひばりさんとの関係

設問:あなたと美空ひばりさんの関係についてお尋ねします。以下の観点であてはまる項目すべてにチェックをお願いします。→より下の回答をしているほど、美空ひばりさんを知っていると想定。

結果の要約

- ・美空ひばりさんを全く知らない人はほぼいない。
- ・名前だけ/歌だけ/姿だけを知る人はそれぞれ2人/3人/4人と少なく、多くの人たちが複数の面で美空ひばりさんを知っている。
- ・ファンを自認される方は全体の約1/4程。



※一人のファンの方が懐かしさを綴っておられました。

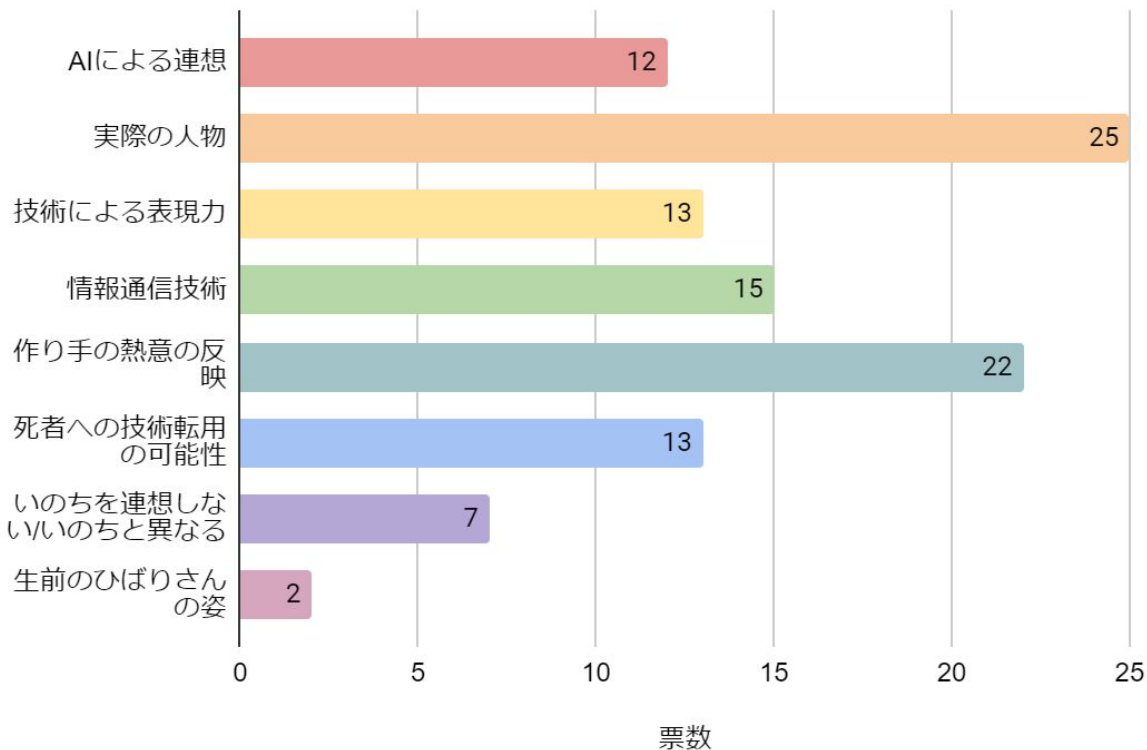


AI美空ひばりのどこに「いのち」を連想するか

下記選択肢の自由複数回答から「いのち」を連想する領域を分析する。

- ①一種の自律性や学習性を持つ人工知能(AI)を実装しているから。
- ②架空の人物でなく、昭和の大スター美空ひばりという実際の人物を扱っているから。
- ③高い映像/音声技術によって、生き生きと美空ひばりが表現されているから。
- ④情報通信技術と相まって、AI美空ひばりがクリエイターやファン/視聴者を繋ぐ作品となっているから。
- ⑤AI美空ひばりの開発に関わる、作曲家、歌手、技術者たちの情熱と“再会”への願いが反映されていたから。
- ⑥AI技術を転用によって、その他の故人の再現も容易なのではないかと感じたから。
- ⑦その他(自由に記述)。

AI美空ひばりのどこに「いのち」を連想するか



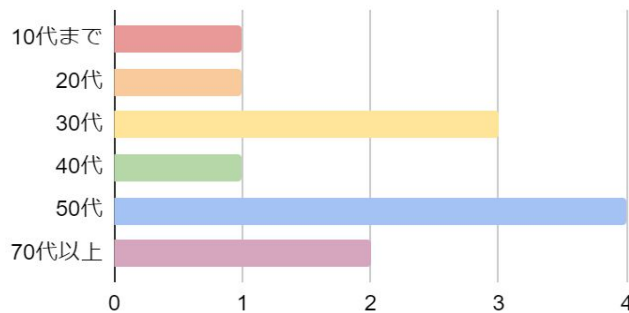
・「いのち」を連想する文脈は実際の回答でも多面的。下2つの棒グラフは「その他」の回答から要約。

・AI/メディア/通信などの技術的側面より「実際の人物」「作り手の熱意」を回答された方が比較的高い。

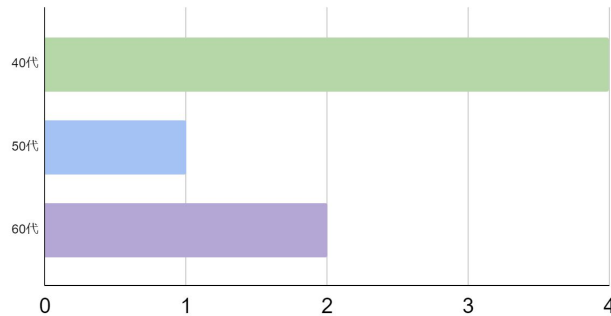
・いのちを連想しないという回答が一定数存在する(AIにはないという文脈が多数で、選択技①を強く否定した形となる)。

属性分析

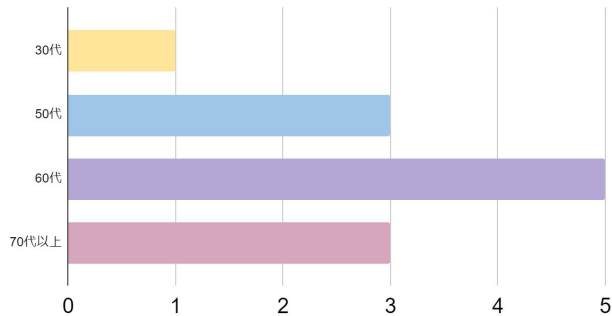
AIに「いのち」を連想した年代層



「いのち」を連想しなかった年齢層



ファンの方の年齢層



- ・どの年齢層にもAIなど技術的側面に「いのち」を連想する人々が一定数いる。
- ・いのちを連想しなかった層は比較的年齢が上の層の人/しっかりした死生観に基づく場合が多い。
→「いのちは生きて死ぬもの」「死者は死者のままに」など...
- ・高齢の方が多いファンの層は比較的肯定的 or 批判を踏まえた前向きな意見が多い。
→ひばりさんの全盛期/黄金期をそれぞれ表現してほしい、リスペクトを前提に企画を進めてほしい、AI美空ひばりを通して、改めて美空ひばりさんの凄さを感じたなど...
- ・若い年齢層の方は賛否両論。素朴に関心や興味を述べたものが多い印象を受ける。



自由記述の分析

自由記述の設問

- ①あなたはAI美空ひばりについてどう思いますか？
- ②今後のAI美空ひばりプロジェクトに期待すること検討すべきことについて、自由に記述してください(任意)。

回答の概要

- ・非常に多くの記述回答があり、内容は多岐にわたった。
- ・設問の題意が重なる部分もあったため、同様の内容が両方の設問に見られることも多い。



分析の方針

・題意類似から設問別の整理が有効でないため、内容をキーワードにまとめ出現回数を分析。→(アンケートにおけるワードクラウドを疑似的に作成)

例:「面白い企画であり、ひばりさんが蘇ったようで懐かしかった。」という意見を、キーワード「面白い」「蘇り」「懐かしい」でそれぞれ 1カウント。※発表用に考案した表現のため、キーワード抽出に分析者の主観が入ることに注意されたい。

・スライドによる説明を念頭に、ワードクラウドを以下2つのテーマで整理。

i AI美空ひばり感情マップ

(AI美空ひばりへの感情を、メディア表現/死者/肯定/否定のマトリクスによって表現)

ii 制作と倫理的議論に関して

(i で抽出できなかった感情を制作や倫理的議論のトピックからグルーピング)

AI美空ひばり感情マップ

肯定的

みんなの会いたい欲が美しい (1)

よかった (2)

感動 (2)

懐かしい (2)

なかなか (1)

プラスの感情 (1)

自身の励み (2)

無念が和らいだ (1)

中途半端にできない (2)

涙 (2)

受け手次第 (1)

複雑 (1)

疑問 (2)

蘇り/再会 (7)

不気味の谷 (2)

感動するか? (2)

喪失感 (1)

死者として

違和感 (4)

イメージを壊さないか? (1)

不気味 (2)

なぜ美空ひばりさんなのか? (2)

いのちへの畏敬を失う (3)

冒瀆 (4)

気持ち悪い (3)

嫌悪感 (1)

否定的

不愉快 (1)

ドキドキ (1)

おもしろい (3)

制作/挑戦への共感 (3)

わくわく (1)

ユニーク (1)

驚き (1)

慣れた (1)

奇異 (1)

技術的もやもや (1)

魅力的でない (2)

がっかり (1)

伝わってこない (1)

メディア表現として



AI美空ひばり感情マップの要約

- ・マトリクス上の分布から、AI美空ひばりに対し回答者は様々な意見を持っていることが伺える。単なる賛否ではない意見(慣れた、挑戦への共感、中途半端にできない、いのちへの畏敬みんなの会いたい欲が美しい、喪失感など)もあり、我々が死者やメディア作品に感じることを求めることは多面的といえる。
- ・マトリクス中央のグルーピングは、メタ批判的視点や入り混じった感情となる。より高い表現を求める気持ちと死者への気持ちの同居である「不気味の谷」という言葉や、美空ひばりさんをなぜ対象にしたのか/ほかの人ならどうかという意見も散見された。
- ・NHKで以前調査したTwitterのワードクラウド同様、「冒涇」など一部批判的な意見も見られた。→意見が割れる現象はSNSに特有ではなく、むしろしっかりした死生観を持った方が一定数いるためという見立てができるかもしれない。

制作と倫理的議論に関して

制作されたものとして

作り手の意図/制作への懷疑/興味 (8)

AI美空ひばりと美空ひばりさんの
区別/AIといのちの区別 (10)

フィクション/SF/創作表現
エンターテインメント (6)

新曲/セリフ
の評価(-6,2)

社会的試みとして

社会的試み/さらなる倫理的議
論のきっかけとして評価 (7)

否定/反対(2)

賛否なし(2)

・新曲/セリフは、①受け手のメ
ディア表現への期待と②死者
への感情、③制作側の意図の3
つが入り混じる結節点となっ
ている。

・このような含蓄のあるコンテ
ンツのため、社会的試みとして評
価する声も多い。

メディア表現として

さらなる表現/再現への期待 (6)

音響・声 (2,-1)

表情 (-3)

動き (-7)

雰囲気 (-1)

映像 (-4)

AIへの期待 (6)

※-1のような表記はキーワードへの賛否(例:音響・声
(2,-1)=音がいい×2、音がわるい×1)

死者への倫理として

死者の意思/承諾の必要性 (6, -1)

死者へのリスペクト (1)

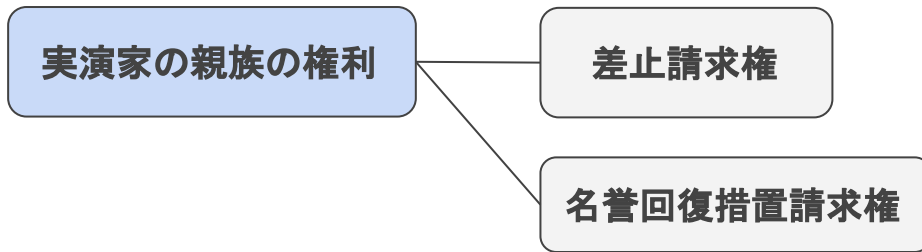
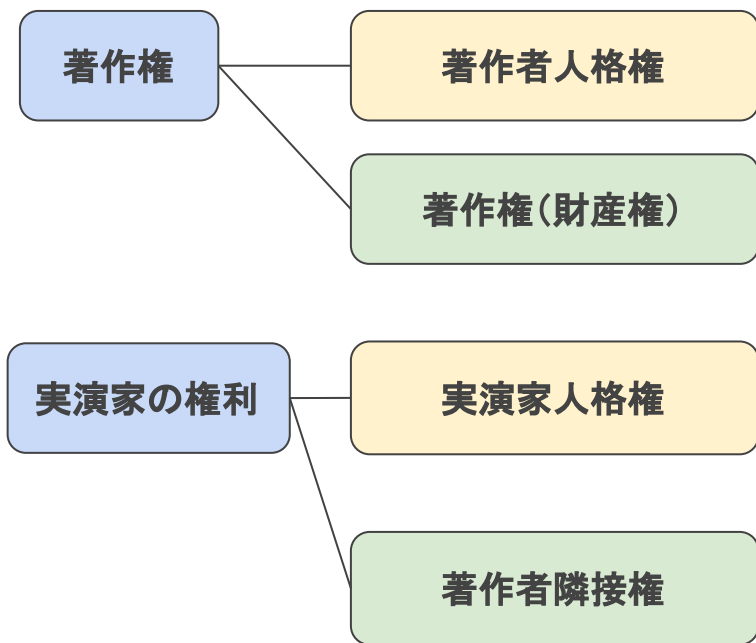
いのちは死ぬもの (4)

新たな偲ぶ形 (1)

親族の希望
(1)

死者はそのままに (1)

法律と「いのち」の交差点は人格権



・人の存在や人格と不可分な利益に関する権利の総称。生命・身体・名誉・プライバシーなどに関する権利。

・黄色は譲渡や相続のできない一身専属の権利であり、緑色は主に財産に関する権利。

・AI美空ひばりにおいては、①親族が人格を守る権利を持っていること②様々な人々(NHKや企業など)の権利が反映された複合的知財であることがポイント。



制作と倫理的議論/人格権に関する要点

- ・「制作されたものとして」のグルーピングでは、回答者の制作側に対する関心の強さが伺える。これは選択式の分析で作り手の存在に「いのち」を連想した人が多い点とも符合する。
- ・「メディア表現として」「死者への倫理として」のグルーピングでは、感情マップで示した感情がより具体的な形で現れている。前者ではAI美空ひばりをより洗練させる観点から各演出/表現への批判(辛口評価?)やAIへの期待が、後者では前に指摘した死生観や検討すべき倫理的観点がそれぞれ見られる。
- ・回答者が特に「いのち」を連想した故人の人格と作り手の存在は、法律の文脈でもせめぎあう点となる。現在は親族の同意のもと複数の関係者が関わる形でAI美空ひばりが成立しており、回答者の注目が集まった生前の意思などは今後検討する必要があるかもしれない。同様に、これら関係者の意図や利害/感情をいかに整理していくかも焦点となる。



まとめ

- ・AI美空ひばりに感じられる「いのち」は多面的であるが、美空ひばりさんという実在したスターを扱っていることと、開発に関わる人たちの情熱が反映されていることが大きい。
- ・自由記述の回答から、回答者は①美空ひばりさんと②AI美空ひばり③制作者の存在を区別することや、制作側の意図に強い関心を持っていることが示唆される。
- ・死者の存在やメディア表現のあり方について、AIの作り手と受け手間でコミュニケーションが必要だと調査から示唆される。AI美空ひばりはそのようなコミュニケーションの実践的「場」であり、今後AIとメディア/死者をめぐる議論が社会的に深まることが期待される。

ご視聴ありがとうございました。